

# 写真家と評論家は、シボレーを駆つて、4カ月間、アメリカのジャズを追つた!

「民族の祭典」で知られ女優にして、監督でもあったレニ・リーフェンシュタールの写真集「Africa」は03年に発売された。564頁 ¥315,000



美容整形の歴史本「Aesthetic Surgery」の表紙も手がけたデヴィッド・ラシャペル。692頁の最新作。¥283,500 (発売前予約は¥178,500)



04年のモハメド・アリのビジュアル本「GOAT」のチャンプエディションは、空前絶後の800頁。50×50cm、34kg。なぜカイルカとタイヤのオブジェつき ¥1,575,000



02年に発売された荒木経惟の「ARAKI」。日本の写真家の作品集にもかかわらず、日本輸入の際の、黒塗りデザイン雀の間で物議を醸した。¥315,000



つたジャズのルーツであるゴスペルやブルースにも迫り、貴重な写真とテキストで記録した「JAZZ LIFE」は、紛れもなく、そのフォトジャーナリズムの文法を踏襲した本だった。

今回の復刻本を見て、最も驚かされるのは、旅をしながらたった4カ月で撮られたとは到底信じられない豪華な顔ぶれと写真のクオリティである。ピリー・ホリデイ、カウント・ベイシー、チャーリー・パーカー、マイルス・デイビス、レイ・チャールズといった当時の（あるいはまだ無名だった）スターたちとの素晴らしいフォトセッション。ライブや演奏シーンをおさめた写真。当意即妙のタイミンクで写された楽屋やオフステージの素顔。教会のゴスペルや路上ライブをおさめた写真もある。ジャズファンであればページをめくることに溜息をつき、クラクストンファンならば、あの写真もこの写真も、この時に撮られたとは！と舌を巻くはずだ。間違いなく、ジャズ写真集のOne of The Bestである。

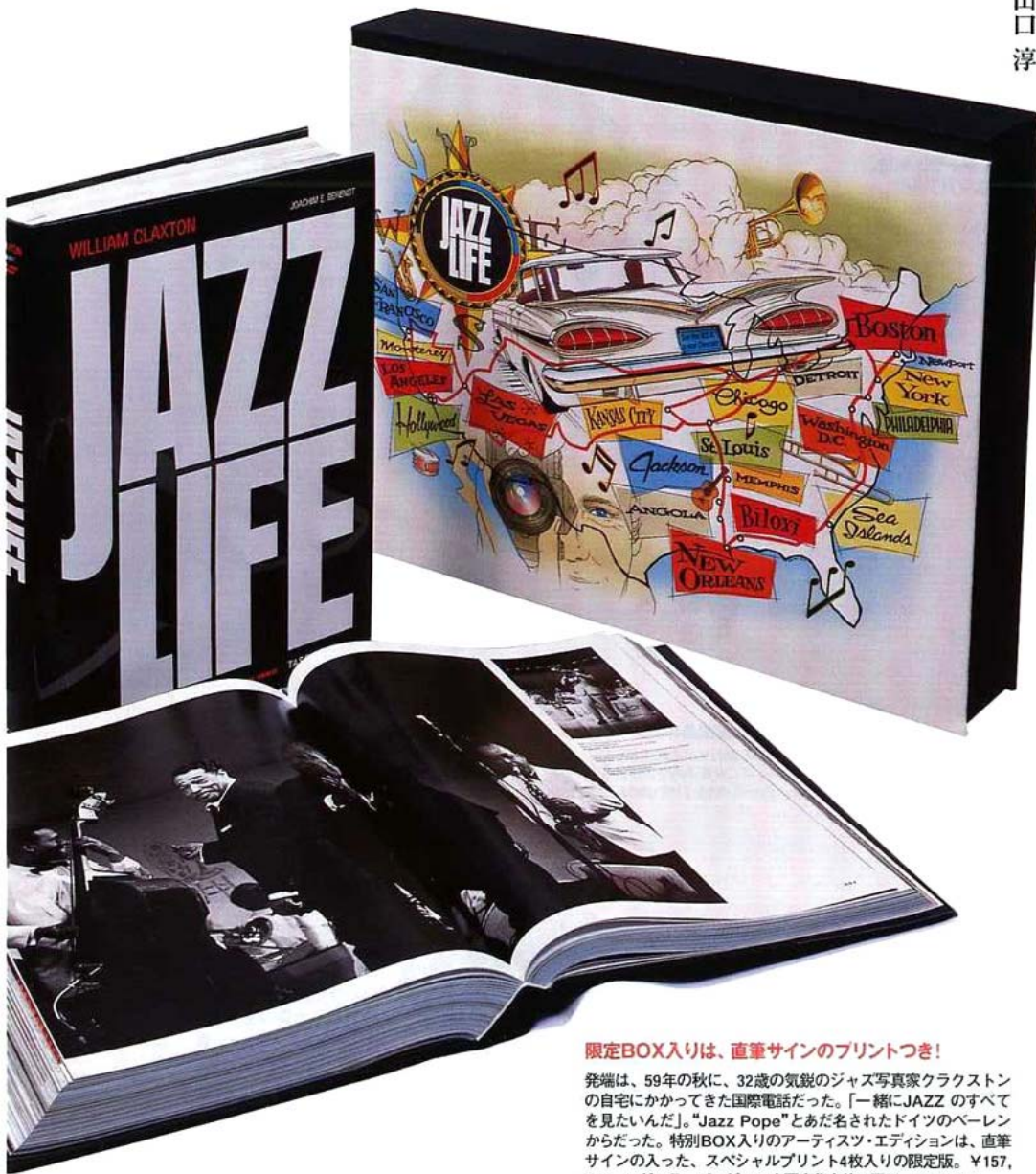
ここ数年、タッセンからは、フィリップ・スタルクがデザインした専用テーブル付きのヘルムート・ニュートンの「SUMO」、レニ・リーフェンシュタールの「Africa」、モハメド・アリの「GOAT」など、超重量級の大型写真集、あるいはコレクター向けのアーティスト・エディションが相次いで出版されているが、「JAZZ LIFE」も、その一冊。しかも2本立て。上の限定アーティスト・エディションバージョンには、なんとクラクストンの直筆サイン入りスペシャルプリント4枚がオマケ?! がついてくる。

文・山口淳

# 欲しい。これは、

156

TASCHEN / JAZZ LIFE  
タッシェン—ジャズライフ



限定BOX入りは、直筆サインのプリントつき!

発端は、59年の秋に、32歳の気鋭のジャズ写真家クラクストンの自宅にかかってきた国際電話だった。「一緒にJAZZのすべてを見たいんだ」。「Jazz Pope」とあだ名されたドイツのペーレンからだ。特別BOX入りのアーティスト・エディションは、直筆サインの入った、スペシャルプリント4枚入りの限定版。¥157,500。レギュラーバージョンも写真集自体は同じ。¥26,250

吉野 豊・写真  
photographs by Yutaka Aono

1961年にドイツのBurda出版から上梓された、写真家ウィリアム・クラクストンとドイツのジャズ評論家兼音楽プロデューサー、ヨアヒム・ペーレンによる『JAZZ LIFE』。その名著が未発表作品、クラクストンの手記、当時の貴重な録音をおさめたCDなどを加え、大胆な再編集をされてタッシェンから復刻された。ハードカバーで、英語、フランス語、ドイツ語の3カ国語表記。サイズは291×407cm。総ページ696という文字通りの超大作である。

### タッシェンが挑む、豪華大型作品集群。

フォトジャーナリズムという手法を発明したアメリカは、児童労働の悲惨な現実を写真と客観的なキャプションで告発したルイス・ハインの『KIDS AT WORK』、写真家ウォーカー・エバンスと詩人で映画評論家のジェイムズ・エイジーが恐慌下のアラバマで白人小作農家族と3カ月過ごし、写真報道の新しいあり方に挑んだ『Let us now praise famous men』、ユーージン・スミスが『LIFE』誌のために撮りおろした『カントリー・ドクター』や『スペインの村』、あるいはプレスリーのブレイクの瞬間を追ったアルフレッド・ワートハイマーの『Elvis!』のような数々の傑作フォトドキュメントやフォトストーリーを生んだ。

出版社こそドイツだったが、クラクストンがハンドルを握るシボレー・インバラで、4カ月間、NY、ボストン、シカゴ、ジョージア、セントルイスなどを訪ね、ジャズと再評価されつつあ